

11年前にマヌーさんこと島岡さんとの結婚を機に、スイスから来日。国際夫婦漫才「フランポネ」としてコンビを組んで活躍している「シラちゃん」ことプリシラさんに、スイスや漫才について伺いました。

1 コンビ名の「フランポネ」とは どういう意味ですか？

フランス語の「France」と「Japon」をミックスして「フランポネ」と名付けました。

私たちは日本で唯一、フランス語で漫才ができるコンビです。



国際夫婦漫才「フランポネ」

2 故郷のジュネーブ(スイス)は、 どのようなところですか？

フランスとの国境沿いに位置していて、場所によっては歩いて5分でフランスに行くことができます。主にフランス語が使われ、フランス色がとても強い地域です。レマン湖のほとりにある「Jet d'Eau(大噴水)」がランドマークです。

3 「ジュネーブ人」の特徴は？

大きな声で話します。日本では、怒っているのかな?と勘違いされることもあります。元気よくハキハキしゃべるのは「ジュネーブ人」の特徴です。

4 川崎はどうですか?お薦めのスポットは?

とても住みやすい街だと思います。東京ほど混み合っていないし、いろいろな言語に対応した施設があります。例えば、登戸の日本民家園はとてもお薦めです。私の両親も、スイスの昔の古い家と雰囲気がとても似ていると喜んでいました。もっとたくさんの外国人に訪れていただきたいです。

5 漫才を始めたきっかけは?

5年前に吉本興業に所属して、翌年にプロデビューしました。当初は、夫からあまり詳しい説明を受けないままスクールに連れていかれましたが、今ではお客様を笑わせることがとても好きになりましたし、おかげで日本語も上達しました。まだまだ日本語は勉強中ですが、だいぶ慣れてきたと思います。

6 「フランポネ」の漫才は どこで観ることができますか?

渋谷の「ヨシモト∞(無限大)ドーム」というお笑いの劇場に、月一回出演しています。YouTubeでも「フランポネ」で検索すれば、私たちが出てきますよ。

自分自身でお気に入りのコントは、コンビで挨拶を間違えるコントです。「かしこまりました」と言うのはとても難しくて、「おかしくなりました」と言ってしまったのは、実際にあったことです。(笑)

海外での私たちの予定としては、12月にトルコで公演します。また、日本人に簡単な英語漫才を作ってもらい、川崎の姉妹都市であるアメリカのメリーランド州ボルチモア市やオーストラリアのウーロンゴン市で、文化交流の一環として披露するという話も進行中です。

7 好きな芸人は?

海外志向のある渡辺直美さんや、ゆりやんレトリィバァさんが好きです。

8 日本とスイスの お笑いの違いは? 観客の反応は?

日本のお笑いにはタブーがたくさんあります。例えば、政治的あるいは人種的な話題は避ける傾向があるので、自然と娯楽色が強くなります。逆に欧米は、そういった話題に触れて風刺的であることが多く、やりすぎないギリギリのラインを狙って笑いをとるのが、上手なコメディアンと言われるのです。

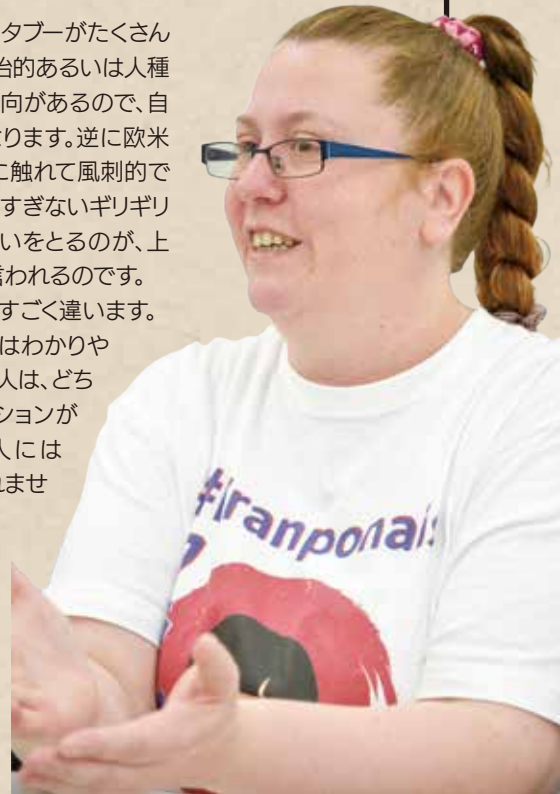
お客さんの反応もすごく違います。日本人やフランス人はわかりやすいです。ジュネーブ人は、どちらかと言えばリアクションが薄いです。若手芸人にはちょっと辛いかもしれません。(笑)

あと、外国にはボケとツッコミの文化はありませんので、日本のお笑いや漫才のシステムをしっかり説明してから、始めるようにしています。



スイス連邦

面積	41,000km ²
人口	867万人
首都	ベルン
言語	ドイツ語、フランス語、イタリア語、ロマンス語



プリシラさん

9 今後はどのような漫才を目指したいですか? 挑戦したいことは?

私たちは、お笑いを通して社会問題の解決を目指しています。例えば、国際交流の一環として、外国人に簡単な日本語で漫才を作ってもらったり、日本人と外国人にコンビを組んで漫才をしてもらったりする試みも行っています。障害者就労施設で漫才をすることもあります。

また、漫才を「The Manzai」として国際的に広めていきたい、英語やフランス語でやることにより、日本文化としての漫才を世界に広めていきたいです。

ちょうどスイスから来日されたご両親も同席され、インタビューは終始とても賑やかで、漫才もご披露いただきました。



なかよしファミリー



プリシラさんと
高橋編集ボランティア